

【「マンガでわかる技術文書の書き方」は4つの切り口で内容を解説】

1. 「マンガでわかる技術文書の書き方」の切り口

「マンガでわかる技術文書の書き方」では、以下に示した4つの切り口で内容を解説しています。「内容が明確に伝わる技術文書の書き方」を確実に理解していただくためです。

①マンガ部

* マンガで内容を解説しています。

②会話形式部

* 2人の女性が会話をしているような形式で内容を解説しています。

③テキスト解説部

* 掘り下げて理解していただきたい内容を詳しく解説しています。「解説○」と表記しているところです。

④付録（実践での使い方）

* 「付録 実践での使い方」の章です。

2. マンガ部



3. 会話形式部

●書き手とは？

書き手とは、技術文書を書く人のこと。また、書き手は、技術文書に書いてないことも知っている。すなわち、書き手とは“知っている人”ね。





“知っている人”ですか？



書き手が行った調査の報告書を書く場合を例にして“知っている人”について考えてみましょう。

4. テキスト解説部

▣ 解説 1：
技術文書を書く目的

技術文書を書く目的とは、**技術文書の書き手からその読み手に内容を伝達すること**です。内容とは、書き手が読み手に伝えることです。仕事の成果、会議や打ち合わせで説明すること、提案の内容、企画の内容、メールで伝えることなどです。

例えば、業務を受注した人（書き手）が業務を発注した人（読み手）に業務の成果（内容）を伝達するために業務報告書を書くことを考えれば技術文書を書く目的がわかると思います。

5. 付録（実践での使い方）

付録

実践での使い方

1章から5章で、「内容が明確に伝わる技術文書の書き方の3原則」と「6つのルールと18の書き方」について解説しました。そこで、ここでは、実践でのこれらの使い方を解説します。実践での使い方の解説として、これらを使って「Before：内容が明確に伝わらない技術文書」を「After：内容が明確に伝わる技術文書」に修正する方法を解説します。

【参考：マンガのストーリー】

大学を卒業したばかりの新入社員(太田文乃)が憧れの先輩(大久保詩子)の指導を受けながら書き方の技術などを学ぶストーリーです。太田文乃さんを含む8名の登場人物が様々に関わり合いながらストーリーが展開します。面白いストーリーです。



以 上